

令和2年度 看護職の定着確保動向調査結果の概要 — 新人看護職員対象 —

1.調査概要

調査目的	新人看護職の現状を把握し、今後の看護職の定着確保対策の基礎資料を得る
調査対象	千葉県看護協会会員施設(570施設)の新人看護職員
調査時期	令和2年12月15日 ~ 令和2年12月24日
調査方法	千葉県看護協会ホームページのアンケート機能を活用したWeb調査。 千葉県看護協会会員施設の看護管理者宛に、調査依頼を郵送し、新人看護職員に配布の依頼をした。
回収状況	回収数 : 791名

2.調査結果

問1 性別

性別は、「女性」が90.9%、「男性」が9.1%であった。

<表1> 性別 (n= 791)

女性	男性	無回答
719	72	0
90.9%	9.1%	0.0%

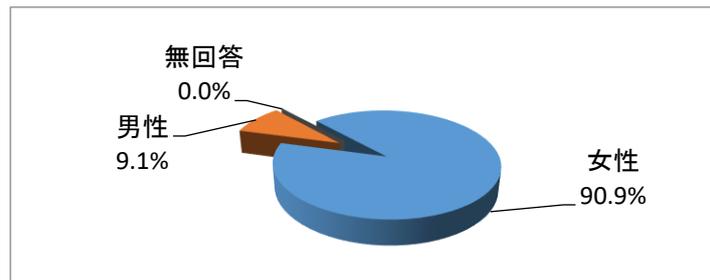


図1 性別

問2 社会人経験について

社会人経験については、「ある」が24.1%、「ない」が75.6%であった。

<表2> 社会人経験について (n= 791)

ある	ない	無回答
191	598	2
24.1%	75.6%	0.3%

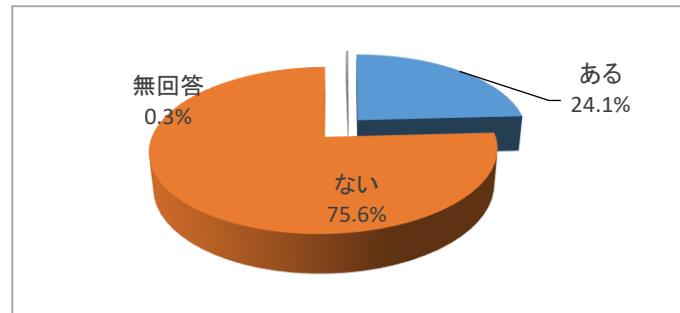


図2 社会人経験について

問3 養成所

所在地

養成所の所在地は、「県内」68.0%、「県外」31.9%であった。

卒業学校等は「看護学校」が最も多く54.7%、次いで「大学」37.5%の順であった。

<表3> 養成所の所在地 (n= 791)

県内	県外	無回答
538	252	1
68.0%	31.9%	0.1%

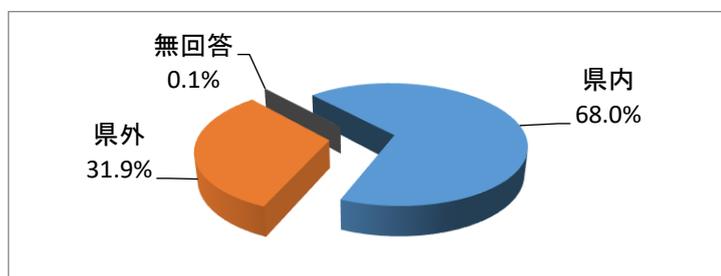


図3 養成所の所在地

<表4> 卒業学校等養成所区分 (n= 791)

大学院	大学	看護学校	保健師学校	助産師学校	准看護師学校	その他	無回答
6	297	433	1	10	23	20	1
0.8%	37.5%	54.8%	0.1%	1.3%	2.9%	2.5%	0.1%

その他

○ 短期大学	○ 看護専門高等学校	○ 高校専攻科
○ 5年一貫校	○ 衛生看護専攻科	

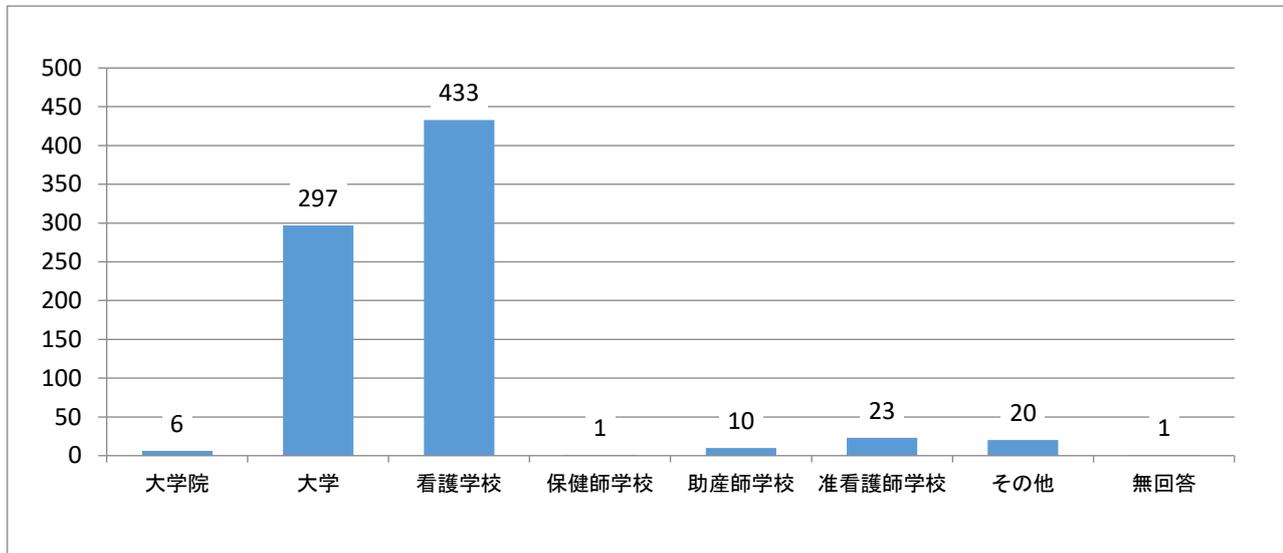


図4 卒業学校等養成所区分

問4 職種

職種は、「看護師」が最も多く91.3%、次いで「准看護師」が3.9%、「助産師」が3.3%、「保健師」が1.4%であった。

<表5> 職種 (n= 791)

保健師	助産師	看護師	准看護師	無回答
11	26	722	31	1
1.4%	3.3%	91.3%	3.9%	0.1%

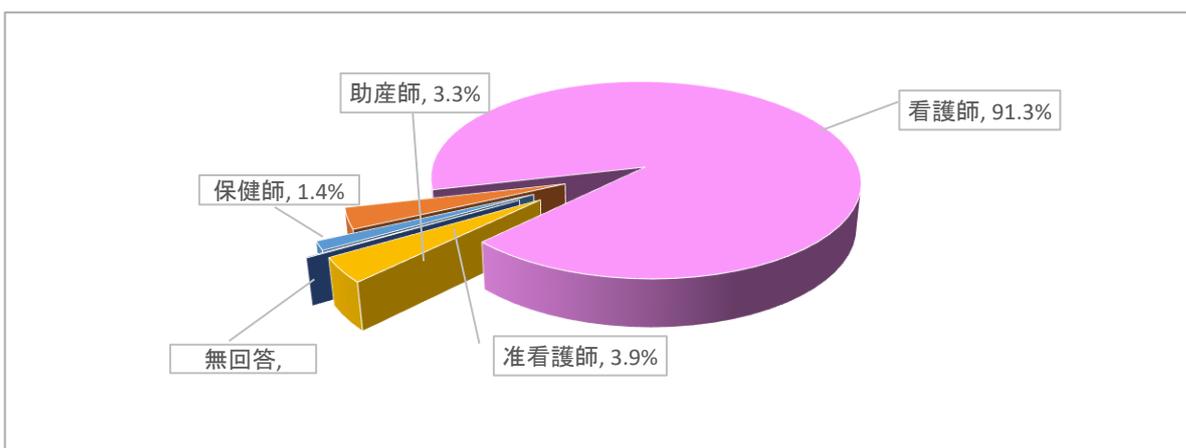


図5 職種

問5 現在の就業状況

施設の所在地（市町村）

現在の就業している施設の所在地は、「千葉市」が最も多く153人、次いで「船橋市」64人、「旭市」55人の順であった。

現在の就業している施設の地区別は、「千葉地区」が最も多く19.6%、次いで「船橋地区」15.2%、「利根地区」8.6%の順であった。

<表6> 施設の所在地(市町村) (n= 791)

千葉市	銚子市	市川市	船橋市	館山市	木更津市	松戸市	野田市	茂原市	成田市
153	3	11	64	8	22	42	10	8	3
佐倉市	東金市	旭市	習志野市	柏市	勝浦市	市原市	流山市	八千代市	我孫子市
19	22	55	36	43	2	32	10	21	0
鴨川市	鎌ヶ谷市	君津市	富津市	浦安市	四街道市	袖ヶ浦市	八街市	印西市	白井市
49	0	11	0	44	11	3	2	26	0
富里市	南房総市	匝瑳市	香取市	山武市	いすみ市	大網白里市	酒々井町	栄町	神崎町
0	1	0	8	3	0	0	0	0	0
多古町	東庄町	九十九里町	芝山町	横芝光町	一宮町	睦沢町	長生村	白子町	長柄町
0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
長南町	大多喜町	御宿町	鋸南町	県外	無回答				
0	0	0	0	0	66				

<表7> 施設の所在地(地区別) (n= 791)

千葉	市原	船橋	市川	松戸	東葛	印旛	利根	山武	長夷
155	32	120	55	42	63	61	68	23	12
19.6%	4.0%	15.2%	7.0%	5.3%	8.0%	7.7%	8.6%	2.9%	1.5%

君津	安房	県外	無回答
36	58	0	66
4.6%	7.3%	0.0%	8.3%

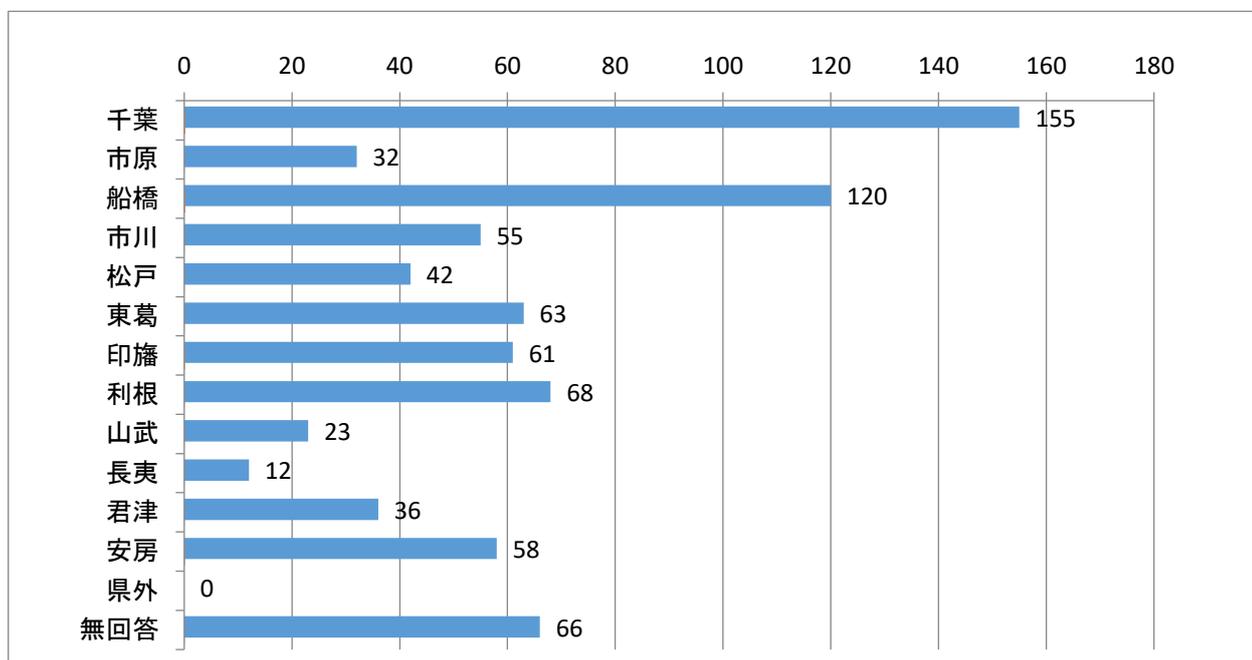


図6 施設の所在地(地区別)

勤務形態

勤務形態は、「常勤」が99.5%、「非常勤」が0.4%であった。

<表8> 勤務形態 (n= 791)

常勤	非常勤	無回答
787	3	1
99.5%	0.4%	0.1%

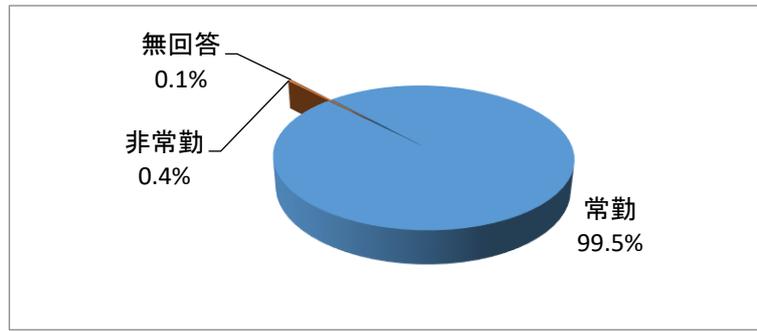


図7 勤務形態

施設規模・施設等

施設等は、「病院」が94.7%であった。病院規模別では、「500床以上」41.6%、「300～399床」14.9%、「400～499床」14.0%の順であった。

<表9> 施設規模・施設等

(n= 791)

病院							無床診療所	有床診療所	市町村
20～99床	100～199床	200～299床	300～399床	400～499床	500床以上	病院合計			
23	84	84	118	111	329	749	1	1	7
2.9%	10.6%	10.6%	14.9%	14.0%	41.6%	94.6%	0.1%	0.1%	0.9%

健康福祉センター	訪問看護ステーション	介護保健施設	社会福祉施設	その他	無回答
1	6	0	2	2	22
0.1%	0.8%	0.0%	0.3%	0.3%	2.8%

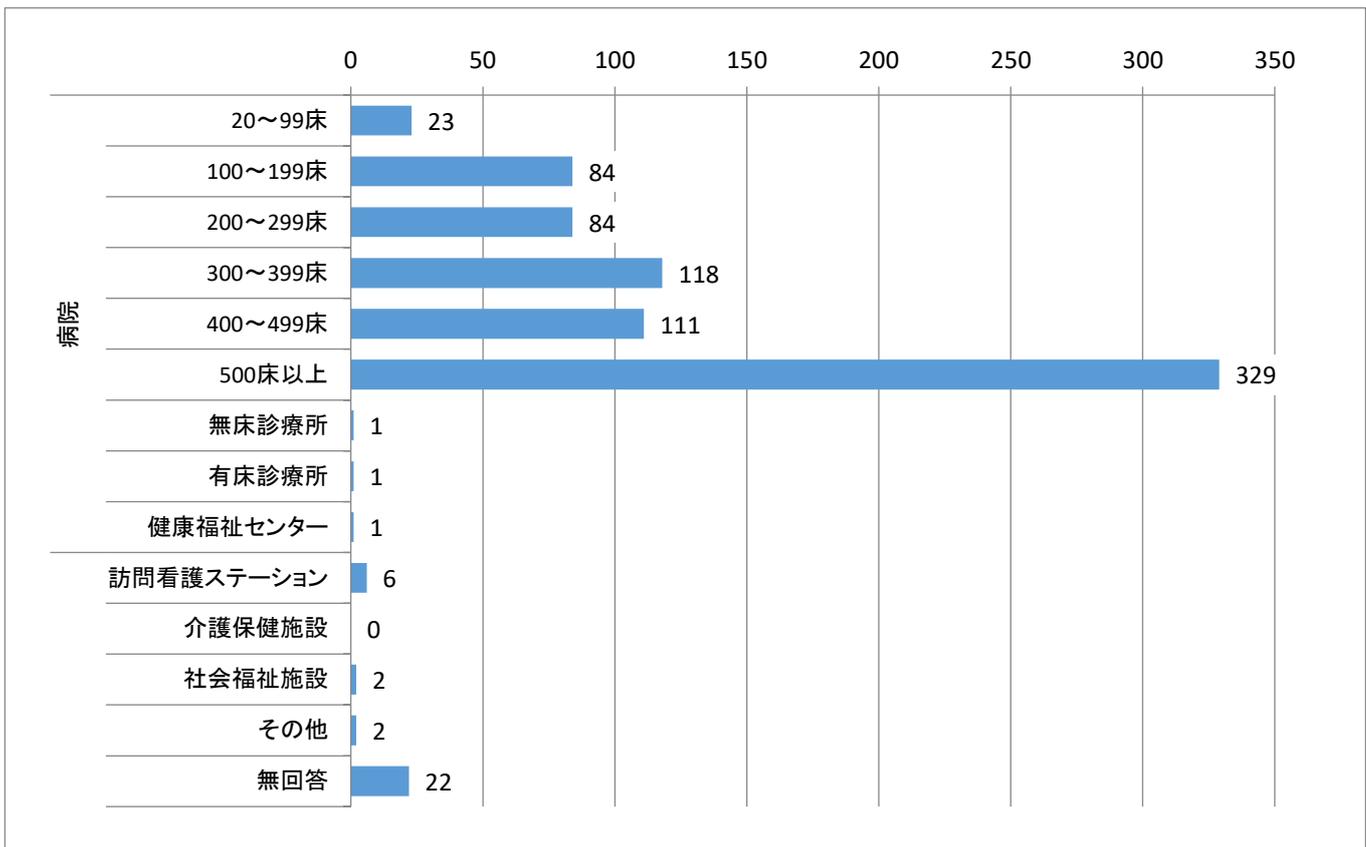


図8 施設規模・施設等

問6 辞めたいと思ったことの有無

辞めたいと思ったことの有無は、「ある」71.4%、「ない」28.6%であった。

<表10> 辞めたいと思ったことの有無

ある	ない	無回答	(n= 791)
565	226	0	
71.4%	28.6%	0.0%	

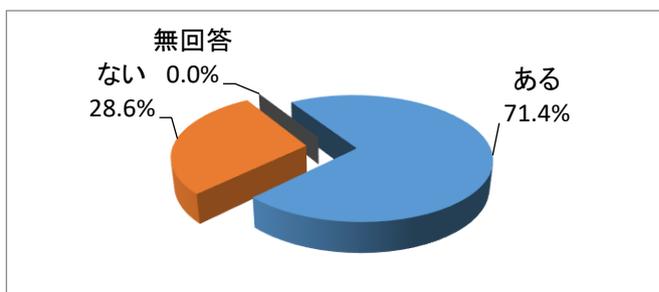


図9 辞めたいと思ったことの有無

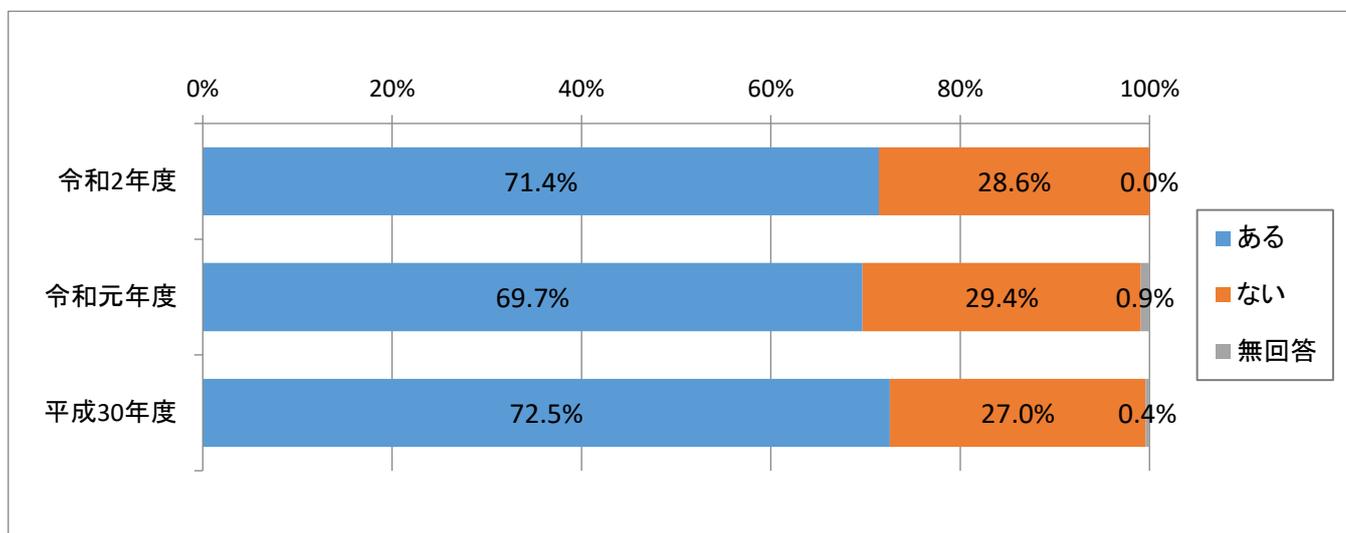


図10 辞めたいと思ったことの有無(3年推移)

問7 辞めたいと考えた理由(複数回答)

辞めたいと考えた理由は、「自分は看護職に向いていないのではないかと思う」が最も多く39.9%、次いで「勤務時間内の仕事が終わらない」37.0%、「医療事故を起こさないか心配」34.1%の順であった。

<表11> 辞めたいと考えた理由(複数回答)

(n= 791)

勤務時間内の仕事が終わらない	293	37.0%
自分は看護職に向いていないのではないかと思う	316	39.9%
配属部署の専門的な知識や技術が不足している	217	27.4%
医療事故を起こさないか心配である	270	34.1%
基本的な技術が身につけていない	194	24.5%
自分の看護が患者のニーズにこたえているか自信がない	194	24.5%
仕事の優先順位が付けられない	182	23.0%
自分のペースで仕事ができない	173	21.9%
職場の先輩に質問しづらい	139	17.6%
ヒヤリハットレポートを書いた	144	18.2%
看護職を辞めたいと思っている	162	20.5%
職場の雰囲気になじめない	130	16.4%
就職前に考えていた看護の仕事とギャップが大きい	131	16.6%
与えられる課題等があつて休日に休めない	120	15.2%
看護業務以外の業務が多すぎると感じる	131	16.6%
受け持ち患者が多すぎる	122	15.4%
プリセプターと合わない	44	5.6%
十分な教育研修が受けられていないと感じる	85	10.7%

医師との意思疎通がうまくいかない	65	8.2%
患者及び家族とのコミュニケーションがうまくとれない	43	5.4%
夜勤に入るのが早いと感じる	40	5.1%
プリセプターからの1人立ちが早いと感じる	44	5.6%
電話の対応がうまくできない	44	5.6%
直属の上司からサポートが得られない	48	6.1%
交代制の勤務に慣れない	26	3.3%
院内のITシステムがうまくいかない	10	1.3%
夜勤のリーダー業務が負担である	10	1.3%
無回答	3	0.4%

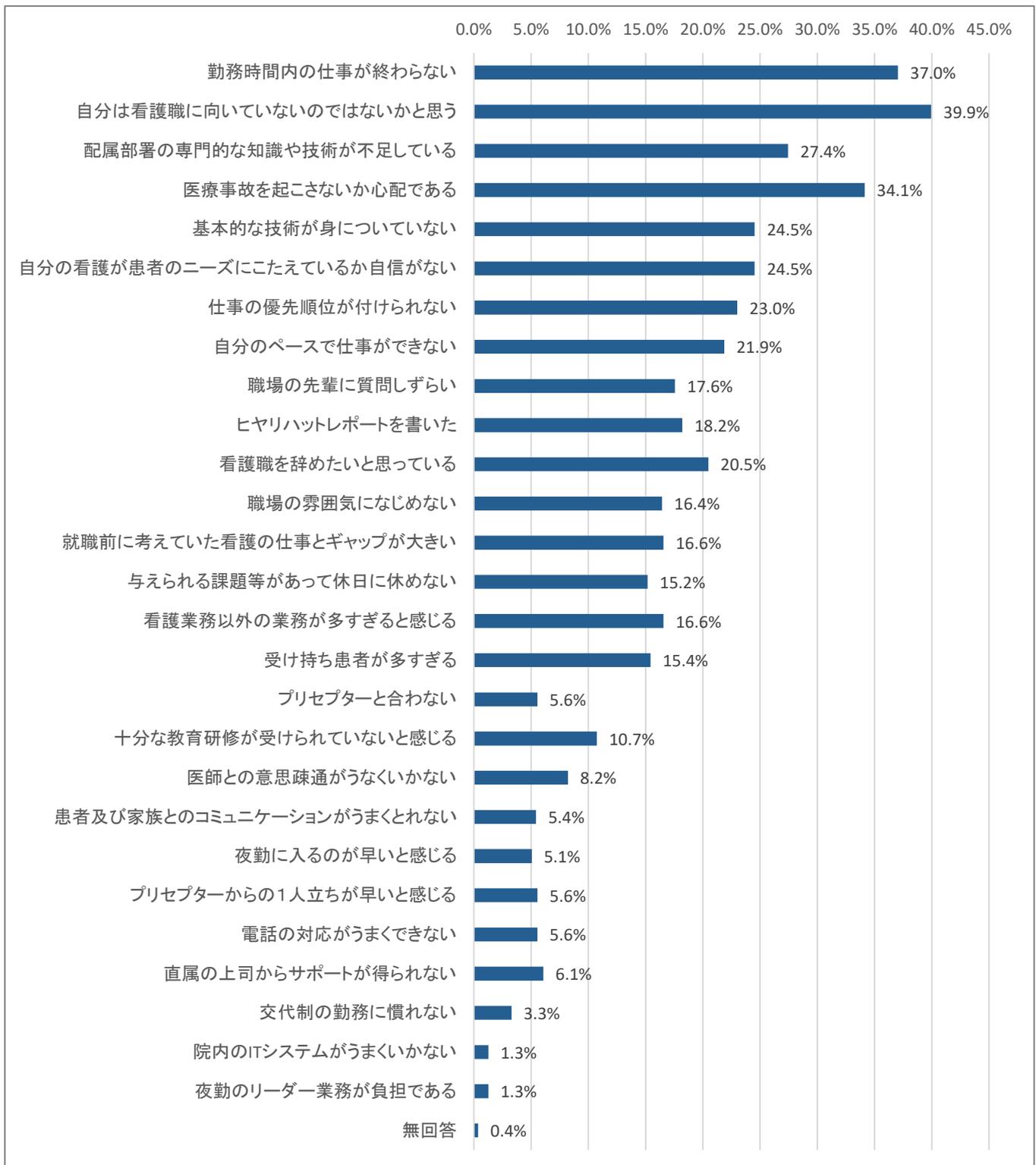


図11 辞めたいと考えた理由

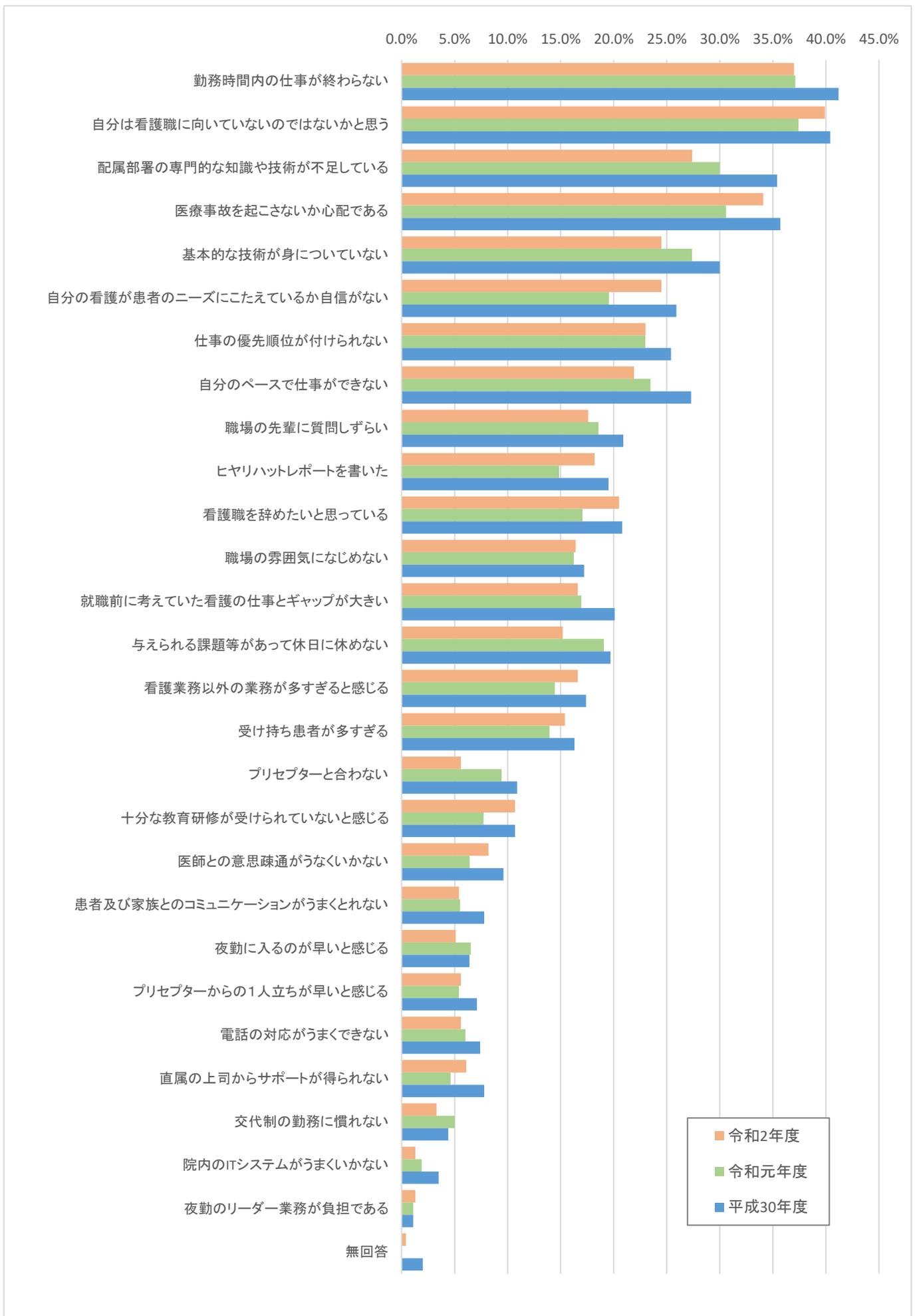


図12 辞めたいと考えた理由(3年推移)

問8 辞める事を思いとどまった理由(複数回答3つまで)

辞める事を思いとどまった理由は、「生活していくための手段」が最も多く43.6%、次いで「自分なりに整理がついたから」18.3%、「収入が安定しているから」17.7%の順であった。

<表12> 辞める事を思いとどまった理由(複数回答)

(n= 791)

理由	件数	割合
生活していくための手段	345	43.6%
自分なりに整理がついたから	145	18.3%
収入が安定しているから	140	17.7%
同僚に相談し、再度やる気になったから	105	13.3%
職場環境が仕事をしやすい環境だったから	62	7.8%
上司に認めてもらったから	27	3.4%
師長等中間管理職に相談し、再度やる気になったから	26	3.3%
目的・目標を持てたから	40	5.1%
看護管理者が尊敬できたから	21	2.7%
仕事にいきがいを感じたから	19	2.4%
給料が仕事に見合っていたから	15	1.9%
研修の機会が用意されたから	5	0.6%
結婚・出産・育児に家族の協力が得られたから	3	0.4%
その他	85	10.7%

その他

- | | | |
|---|--|---|
| <input type="checkbox"/> 奨学金返済のため | <input type="checkbox"/> 辞める勇気がない | <input type="checkbox"/> 辞めるには時期尚早、知識・技術不足 |
| <input type="checkbox"/> 部署等の異動 | <input type="checkbox"/> 早い退職は転職時に厳しそう | <input type="checkbox"/> 辞めてもどこで働か定まっていない |
| <input type="checkbox"/> 職場の同期と別れたくない | <input type="checkbox"/> 患者さんとの関わりが好き | <input type="checkbox"/> 上司を説得しないと辞めれない |
| <input type="checkbox"/> 千葉に住んでいたい | <input type="checkbox"/> コロナが流行っているから | <input type="checkbox"/> 段階を踏めるように業務調整をしてもらった |
| <input type="checkbox"/> 辞めても他の仕事が出来ると思えないから | | <input type="checkbox"/> 気にしないようにした。考えることをやめた |
| <input type="checkbox"/> 忙しすぎて転職を考える間もない。先延ばしにしている | | <input type="checkbox"/> 家族に止められた |
| <input type="checkbox"/> 辞めて逃げるのはかっこ悪い。出来るところまで頑張ってみる | | <input type="checkbox"/> 今は辞めないが転職先を探している |
| <input type="checkbox"/> 人間関係がよい | <input type="checkbox"/> これしかやることがない | <input type="checkbox"/> 仕方がない <input type="checkbox"/> 未だ解決していない |

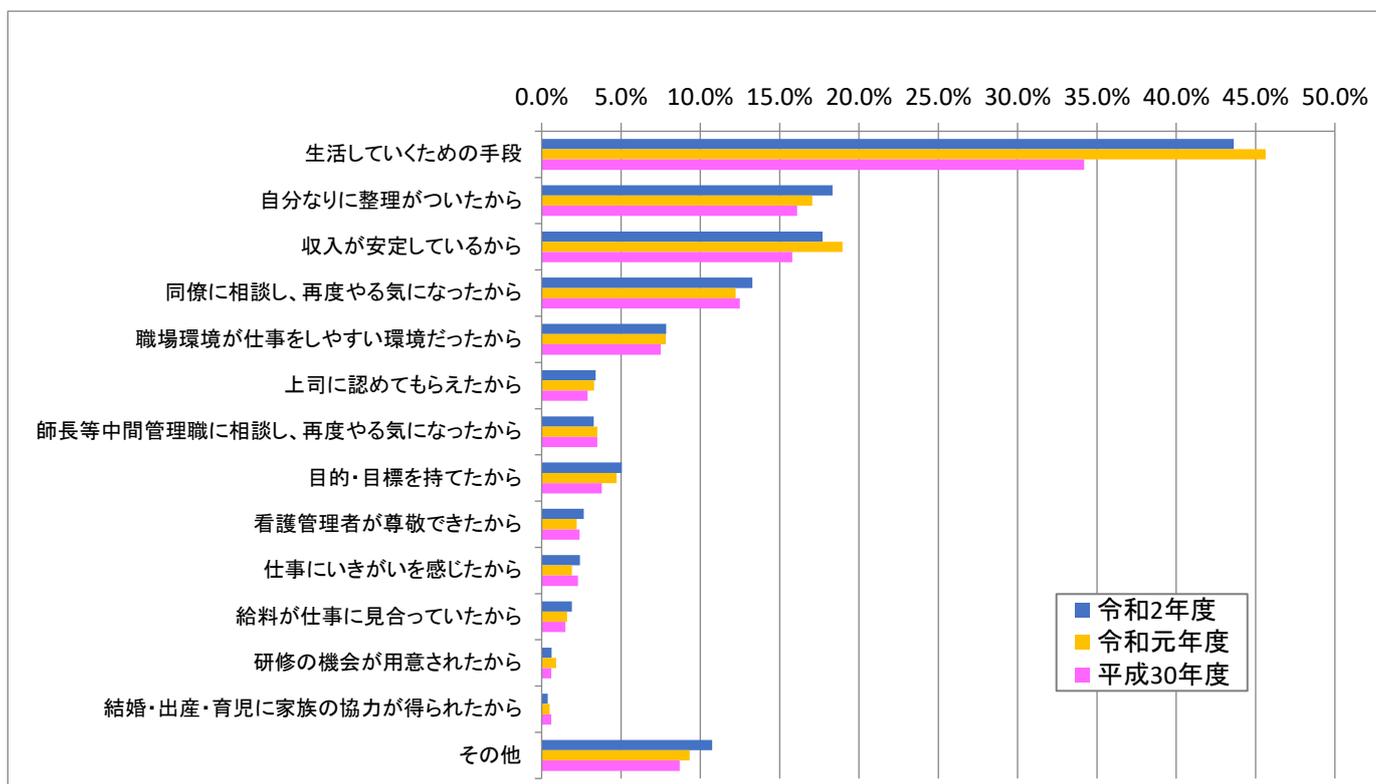


図13 辞めることをとどまった理由(3年推移)

問9 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、困ったこと・苦労していることの有無

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、困ったこと・苦労していることの有無は、「ある」78.8%、「ない」21.2%であった。

<表13> 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、困ったこと・苦労していることの有無

ある	ない	無回答	(n = 791)
623	168	0	
78.8%	21.2%	0.0%	

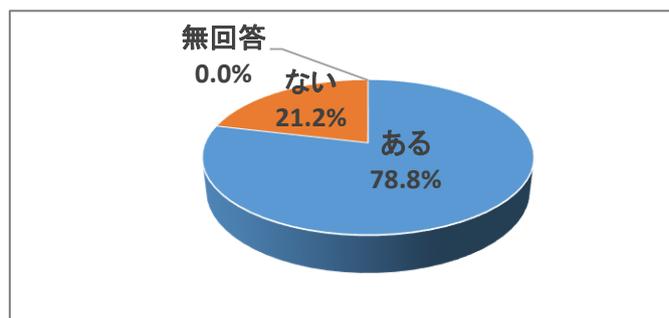


図14 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、困ったこと・苦労していることの有無

問10 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、困ったこと・苦労していることがあると思った理由(複数回答)

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、困ったこと・苦労していることがあると思った理由は、「ストレス発散ができない」が最も多く78.7%、次いで「同僚との交流がない」62.8%、「感染がこわい」51.8%の順であった。

<表14> 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、困ったこと・苦労していることがあると思った理由(複数回答)

	(n = 623)	
ストレス発散ができない	490	78.7%
同僚との交流がない	391	62.8%
感染がこわい	323	51.8%
研修が十分に受けられない	282	45.3%
指導が行き届いていないと思う	81	13.0%
誹謗中傷や差別・偏見があった	39	6.3%
家族から辞めるように言われる	6	1.0%
その他	41	6.6%

その他

- 感染病棟を立ち上げに伴い人手が不足していて、負担が増えた。
- クラスター発生に伴って職員が辞めてしまい、業務負担が多い。
- 病床の満床やコロナ対応に人が割かれるため、他科の患者を受ける割合が多く知識が追いつかないまま看護していることが怖い。
- 患者の重症度があがって、患者を看るのが怖い。
- 部署の長が感染対策にかかりきりで、ほとんど部署におらず相談がしにくい。業務が滞る。
- コロナによる患者と家族の面会制限について、家族から理解をえられなかったり、制限も日々変化しているため、統一した対応を取る事が難しい。
- 医師や経営者の意見を尊重するため、看護師として思うような感染対策をとることが許されず苦労している。
- プライベートを制限され、何のために働いているか分からなくなった。
- コロナ感染症の対策本部で働いている。毎日残業、終電帰りも多く、精神的、身体的に疲労がたまっている。
- 看護師である以上、コロナにかかると職場や患者に迷惑をかけると思うと出かけることができず、ストレス発散方法に困っている。
- 病院が赤字になりボーナスが減った
- 感染対策が徹底していない。
- 深夜業務など待機となるため、患者がいなときはシフト変更(日勤)などがあり、収入も減る。
- 手当が少ない...
- マンパワー不足。
- ウイルス保有者になっている可能性を考えると、家に帰るのも抵抗がある。しかし、金銭面で別の家を借りて暮らすこともできず困っている。
- 家族への誹謗中傷が怖くて実家に帰省できない。

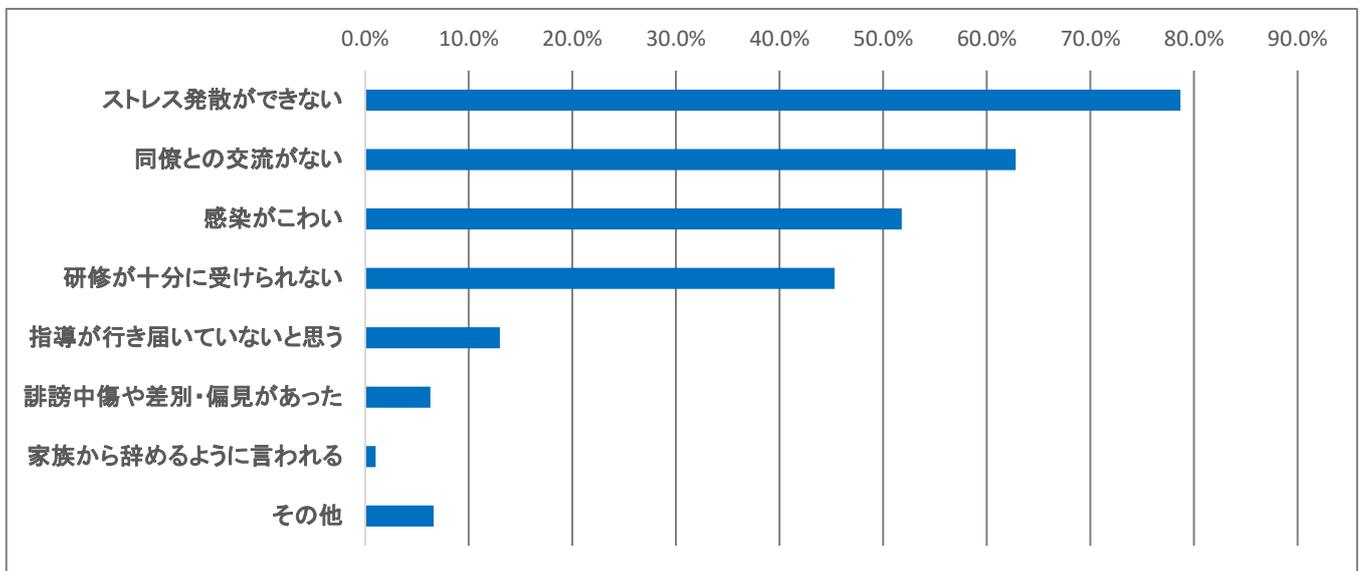


図15 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、困ったこと・苦労していることの理由

問11 「ふれあい看護体験」参加状況

千葉県看護協会主催の「ふれあい看護体験」参加状況

千葉県看護協会主催の「ふれあい看護体験」参加状況は、「参加した」11.4%、「不参加」88.0%であった。不参加者の中で、「他団体主催」の参加者は8.2%、「全く不参加」79.8%であった。

<表15> 千葉県看護協会主催の「ふれあい看護体験」参加状況

参加	不参加	無回答	(n= 791)
90	696	5	
11.4%	88.0%	0.6%	



他団体の看護体験参加状況

<表16> (n= 696)

参加	不参加	無回答
65	631	0
9.3%	90.7%	0.0%



(n= 791)

全く不参加	協会主催	他団体	無回答
631	90	65	5
79.8%	11.4%	8.2%	0.6%

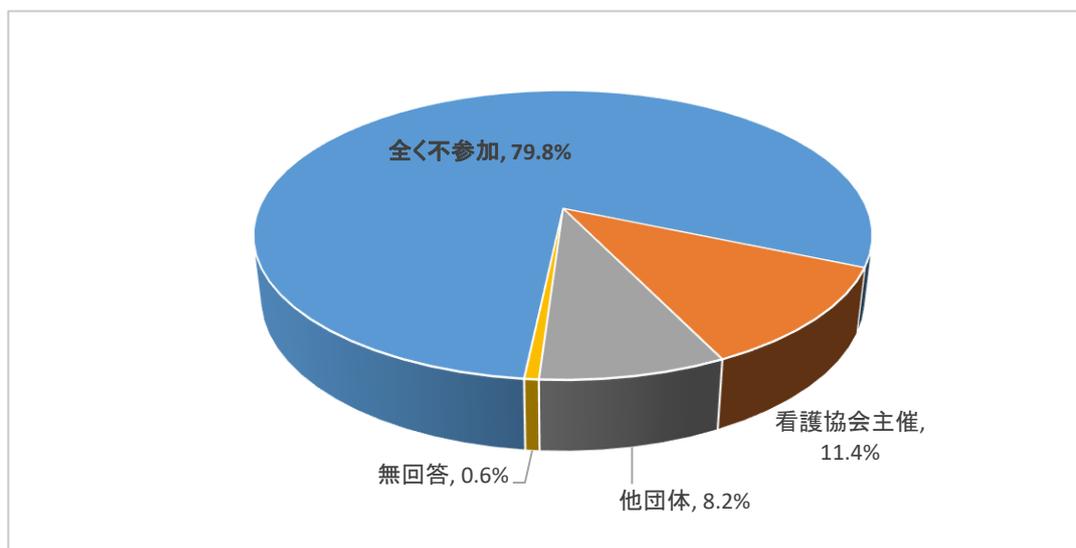


図16 「看護体験」参加状況